



フィリピン

- ① 人口：8,697 万人（2006 年）
- ② 面積：30 万 k m²
- ③ 一人当たりの GDP：1,345 米ドル（2006 年）

	2004 年	2005 年	2006 年
④実質 GDP 成長率 (%)	6.2	5.0	5.4
⑤貿易収支 (米ドル)	△ 43 億	△ 61 億	△ 45 億
⑥経常収支 (米ドル)	16 億	19 億	50 億
⑦外貨準備高 (米ドル)	131 億	159 億	200 億
⑧対外債務残高 (米ドル)	548 億	541 億	533 億
⑨為替レート (1 米ドルにつき、フィリピン・ペソ、期中平均)	56.04	55.09	51.31

【出所】

- ①②⑥⑧：中央銀行 (Selected Philippines Economic Indicators)
- ③⑦⑨：IMF
- ④：国家統計調整局 (NSCB) ⑤：貿易産業省 (DTI)

2006 年の経済成長率は好調なサービス産業と製造業に牽引され 5.4% となった。貿易は、世界的な IT 需要が回復したこと、原油価格の高止まりで輸入額が増えたことなどから、輸出入ともに過去最高を記録した。貿易収支は 6 年連続の赤字となった。一方、対内直接投資 (許可ベース) は、韓国や中国からの大型投資に加え、米系半導体メーカーやコールセンターの追加投資が続いたため、前年比 7 割増となった。対日関係では、日比両政府は 2006 年 9 月に日比経済連携協定に署名した。

【出所】 ジェトロ貿易投資白書 2007 年版

株式会社ケディカ

伝統技術をアジアに

ASEAN 自由貿易地域 (AFTA) など貿易自由化の進展を受け、在フィリピン日経メーカーの間では、拠点を再編の動きが広がっている。2006 年から 07 年にかけて、フィリピンの子会社を解散し、タイやベトナムに移転するメーカーもあったが、一方で新工場設立や増産、生産拠点再編の動きがあった。

株式会社ケディカは 03 年、フィリピンのバタンガス州にあるファーストフィリピン工業団地に子会社ケディカ・フィリピン・コーポレーションを設立。IC リードフレーム鉛フリー外装めっき、鉛フリーパレルめっき、無電回めっきなどの技術を、海外生産拠点に展開している。

従業員は約 130 名で 7～8 割が女性。日本人従業員は 4 名だ。リードフレームや電子精密部品といった精

密な製品を扱うため、管理体制を重視している。

立ち上げ当時は雲をつかむような感覚だったが、他社が 1～2 年かけるところを半年計画で実行。その後、紆余曲折を経て現在に至るが、いまま組合問題による労務対策、役所の対応と課題は多い。

特に技術継承は難しい。優秀な人材が海外へ働きに出ていく社会情勢のなかで、会社の中心となる人を確保しなければならないが、人間的にも魅力のある人材育成を目指す同社の離職率は数%程度である。

ケディカは表面処理という分野にとどまらず、アジアへの技術提携を通じて新しい領域を拓けるべく、ISO - 9001、さらに厳しい国際基準の QS - 9000 認証を取得している。これからも国内外で人を育て、世界に認められるその技術を確立していくであろう。

